

給食だより

11月



11月は「千産千消月間」です。千葉県の「千」とともに 地産地消とは、「地域で生産された農林水産物を地域で消費しようとする」取り組みです。消費者と生産者が「顔が見える関係」になって互いの距離が縮まり、地球環境にも優しいことが注目されています。地産地消は地域のものを食べて終わりではありません。食材にはたくさんの人が関わっていること、取り巻く環境などを知り、さらには未来や地球のことなどの広い分野にも繋がることを知りましょう。

消費者と生産者の距離を近づけるには？

みなさんは、自分が住んでいる地域で、どのような食材が作られているか知っていますか？ 地形や気候によって、それぞれの場所で米や野菜、果物、肉や魚介類など、地域に合ったものが作られ、収穫されます。

現在はスーパーマーケットに行くと、きれいに包装され、すぐに調理できる状態の食材を買うことができます。しかし、それでは消費者と生産者の距離は近いとは言いがたい面があります。食材が店に並べられる前を考えてみましょう。たとえば野菜なら、それらを栽培、収穫し、梱包して市場こんぼうに運び、せりにかけ、スーパーマーケットなどお店に並ぶといった流れが想像できるでしょう。しかし、店頭店頭に並んだ商品を見ただけでは、その野菜を作った人がどんな方なのかはわかりません。

みなさんは生産者による直売所、近年よく見られるようになったスーパーマーケットの地産地消コーナーをのぞいてみたことはありますか？ 中にはラベルに生産者の名前が表示されているものもあります。そうした食材を選んで購入することも地産地消の一環となります。

また地場産物を使った学校給食も地産地消の取り組みの一つです。給食での活用にあたっては、学校と生産者との間に入ってコーディネートするボランティアさんにも支えられています。



地産地消には、どういう良い点があるの？

地産地消の良い点は消費者、生産者の双方の側から考えられます。まず消費者側からは「新鮮なものが手に入る」「地域の食文化が学べる」などがあります。生産者側からは、お互いに顔が見える関係になることで、たとえば見た目が悪いふぞろいな野菜など、見ず知らずの人に売するための「商品」としてははじかれてしまうものでも、きちんと中身を評価して、またそのように育った事情をわかったうえで買ってもらうことができます。

また地域内でお金が回ることで地域経済の貢献にもつながっていきます。

SDGsと地産地消

地産地消は地球全体で取り組む SDGs の、ゴール 14「海の豊かさを守ろう」、ゴール 15「陸の豊かさを守ろう」、ゴール 7「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、ゴール 13「気候変動に具体的な対策を」にも当てはまる取り組みです。

食品だけに限りませんが、物品の長距離の輸送には多くのエネルギーが使われ、温室効果ガスも発生します。生産された場所からできるだけ近いところで消費されれば運搬距離も縮み、環境に優しいことにつながります。

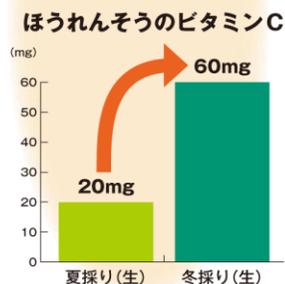


自然の恵みを感じられる

「身土不二(しんどふじ)」という言葉があります。これは「人と土(環境)は一体」という考え方です。人のいのちと健康は食べもので支えられ、食べものは土(環境)が育てます。すると環境を守ることは、食べ物を守り、最終的には私たち人間自身を守ることにもなります。地域の農水産物の多くは自然の営みを上手に利用して作られてきました。野菜、果物、魚介類など、よく熟し、味が最もよくなって出盛りで価格も手頃になる時期を「旬」といいますが、地産地消を意識して食べていると、この「旬」の食べ物を味わうことにも自然につながりやすくなります。旬の食べ物には栄養の面でも良い点があり、旬の時期にはより栄養価が高くなる食べ物もあります。「ほうれん草」などがそうですが、『食品成分表』では、旬の冬のものとは違う夏のほうれん草とを、わざわざ分けて栄養価を表示しています。



ほうれん草(葉)可食部
100gあたりのビタミンC
含有量



いのちに感謝! 「いただきます」



食べ物は、もとはすべて生き物です。そのいのちをいただいて、私たちの命をつないでいることを改めて考えてみましょう。

人に感謝! 「ごちそうさま」



見えるところだけではなく見えない場所でのいろいろな人の力が食生活を支えます。「馳走」はそうした人の働きに感謝する言葉でした。

思いに感謝! 「ありがとう」



優しい気持ちで自分たちの成長を見守ってくれる家族の人、学校の先生、そして私たちの学びや学校給食を支えている多くの人たちの協力についても考えてみましょう。

11月23日は「勤労感謝の日」です。その名が示すように働く人々への感謝を表す日です。もともとはその年の収穫に感謝を捧げる日でした。これからも食べ物のいのちに、そして人々の働きや思いやりに、また生命を育む地球にも愛をもって感謝する日にしましょう。